

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	平成30年6月7日	評価結果市町提出日	平成30年8月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470600285-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 7 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔を絶やさず」を現場のモットーに、日々ひとつの家族として生活している。季節ごとに行事があり、夏祭り・秋祭り、ドライブなど開催している。裏庭には『東屋ガーデン』があり、散歩しながら立ち寄り気分転換にもなっている。通常業務外では、勉強会・委員会設置し、各部署との交流・意見交換し、スキルアップ出来る様心掛けている。温泉の湯を使用しており、広々とした浴室でゆったり入浴している。防災意識も認識しており、普段から体調考慮しながら階段を使用したり、グループホーム用にAEDを購入し急変時にも備えている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設16年目で5年以上の介護経験のある職員が多く、森林の中に存在するホームである為、利用者は落ち着いて生活が出来ている様子が伺える。職員は、常に家族とのコミュニケーションを大切に、悩み事・困り事・相談事等に理念である「笑顔・家族」を提起し取り組んでいる。また、職員は利用者個々に応じた支援をする為、常に職員間で話し合い家族との面会時は出来るだけ多くの時間をかけている。いつも笑い声の響き渡る家族的な雰囲気のある事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・家族」を現場の理念としており共有している	理念は笑顔が判りやすいイラストで入りで、リビングに掲示してある。常に利用者・家族には笑顔で接し、職員間でお互い声掛けし、日常の顔の表情を確認しあっている。訪問する家族には、相談・困り事・悩み事を聞く機会を取り実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや餅つき等の行事の際、地域の方にも参加して頂き交流をしている	事業所のパンフレット・行事等は自治会長に渡し、案内してもらっている。幼稚園児がデイサービス訪問時に一緒に参加し、子供達との触れ合いを大切にしている。また、地区の草刈りに参加している。運営推進会議に地域住民が6名程参加しており、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、地域包括支援センターの担当者から助言して頂いたり対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設見学を取り入れ、地域の方に現場の状況を見て頂いたり、活動の取り組みの報告などしている	自治会長・副会長・地域組長4名・包括支援センターが参加し、同法人グループホームと合同で第1土曜日午後7時30分から年6回開催している。夜、開催するので家族の出席は難しいが地域の方々が数多く参加し、意見の交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が必要時に、津市役所介護保険課に直接出向いて意見交換している	更新の手続きや事故報告書の提出時、介護保険の疑問時等に訪れ、市担当者と情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施し、話し合いをしている	法人の研修会に参加している。エレベーター・入口ドアのロック・施錠は日常していない。帰宅願望の利用者には見守りを強化して拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体・言葉・薬の拘束、また、高齢者の虐待防止法についてヒアリング等を用いて研修の場を、出来れば年3回以上持つように期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を実施し、職員もストレスを溜めないよう努め、意見を出せる雰囲気を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前利用されていた方がおられ必要に応じて対応していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より入居時に詳しく説明し理解を得ている。入居後も不安や疑問があれば、職員含めて丁寧に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族等から直接意見・要望がある事が多い。エレベーター内に御意見箱設置はしている	面会時・必要連絡時の電話時に、意見・意向を聞いているが、面会時は居間・事務所で話す機会が多く職員が家族の様に思い、日頃の悩み・相談・愚痴等で1時間以上も滞在する家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には管理者が直接現場の状況や要望等を必要に応じて伝えている	日常業務の中で言いたい事や、冗談を交わしながら意見・意向・愚痴も出てくる。また、職員の意見をまとめて、管理者は3ヶ月に一回代表者とヒアリングをしており、職員の意見が反映される事もある。業務改善の意見が多く出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要時に管理者が直接代表者に話をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会設置し介護部門内部・外部研修勉強会を実施し、介護知識の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社全体の行事や消防訓練実施時に交流の場を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと話を聞く事で不安が少しでも解消出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族と職員が率直に話せる関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提携医や隣接施設担当者とも必要時には話し合いをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも言い合える環境を作り、時には寄り添いながら関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の事前調査表を作ってあり、その資料を参考に関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人や県外からも面会に来られ、正月には年賀状、手紙が届いたりしており、現状について管理者が報告している	元職場の友人、近所の知人等が面会に来たり、年賀状の支援、法事・墓参り・実家・親戚の家に行ったりと、家族の協力を得て支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに集まる時は、レクリエーションや会話を楽しみながら支援している。一方で1人の時間も大切であると考えておりその都度支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に管理者より話をしている。必要に応じて相談や支援をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重しながら出来る限り支援している	普段の会話、夜勤時、レクリエーション時等に利用者から把握した希望・意向は、連絡ノート・会議ノートに記入し職員間で共有している。また、困難な場合は面会時に家族から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前表を活用しその後の対応に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理は徹底しており早期の異変の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議や家族の意見も取り入れ介護計画を作成し説明し同意を得ている	毎月、カンファレンスで利用者の課題を検討し、3ヶ月毎にモニタリング・評価をして見直しをしている。家族からは面会時、電話等で意見・意向を聞き職員とサービス担当者会議を開き、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡・受診・介護記録等を活用し、職員間で情報共有している。緊急時は当日の職員で決定する事項もある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限界があると思うが、ホームの条件に照らし合わせ、その時の状況で支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員同士で知恵を出し合いながら安全に暮らせる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	問題点は提携医にも気軽に話せる場を作っており、訪問日以外日でも電話対応し助言して頂き支援している	かかりつけ医は3名で家族の協力で受診しているが、協力医は事業所で受診協力しており、受診結果は受診記録票・投薬表で整理され、救急車要請時の情報提供書となり、緊急時は誰でも対応できる様になっている。また、協力医からは月1回の定期訪問診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤では看護師は居ないが隣接施設の看護師に相談・助言を求める場合がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・家族・病院関係者(医師・ケースワーカー)等との情報交換・共有し関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については設備上困難である為、入居前に家族には説明している。が、直前まで対応したケースはある	原則として契約時に、利用者・家族には口頭で医療体制が整っていないので支援は困難であると説明している。家族の意向が多いので、今後は書類に転記する事も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医とは連携を取っているが救急要請の判断が多い。施設グループ内で勉強会を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回実施している。その際消防隊員から指導や助言をもらっている。職員だけでAED勉強会を実施している	年2回、併設のデイサービスと合同で、通報・消火・避難の訓練を消防署立ち合いの下行っており、法人主催の救急対応の勉強会にも参加している。又、自治会規約に災害時の協力協定が明記してある。避難場所も駐車場と決め、利用者・職員で訓練を行っている。	夜間災害を想定した訓練や、職員間の通報訓練、2階からの避難方法等、細かい訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現状をしっかり把握し一人ひとりに合わせた話掛けが出来る様努めている	居室のガラス窓、入口ドアには他人に覗かれない様に目隠しがしてある。また、汚染物(使用済みのおむつ等)は、他の利用者に気付かれない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重しながら柔軟に対応し支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位になりがちな時は、職員同士声を掛け合い一人ひとりのペースに合わせられる様対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類選びの支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は職員とは別(設備設定上)であり献立も業者委託である。テーブル拭き等はして頂く時もある	献立と食材を取り寄せ、調理は職員が個々の好みに合わせて行っている。誕生日には赤飯が作られている。食べる事に全う支援をしたい為、職員は声掛けし、むせ込み防止(誤嚥)の為に見守りをしている。花見等は利用者と一緒に弁当を買いに行き行楽を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・材料は業者委託であるが刻み食などが必要時は職員が対応している。誕生日には皆で赤飯でお祝いしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、毎週日曜日にはポリデント洗浄にて義歯洗浄し、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個室トイレがありプライバシーは守られている。声掛けは行うがそれ以外に介助が必要な方には、その日の状況に応じて時間を変え支援している	現在、自立に近い方は6名おり、他の方には起床時・朝食後・昼食前・午後2時頃・夕食後、また、表情・仕草等を察し声掛けし、トイレに誘導支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要時には便秘薬を使用するが、何とか便秘解消体操やマッサージなどを取り入れて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉の湯を使用しており、浴室も広いためおのびと利用している。入浴時間は午後からになっている	週2回、併設のデイサービスの風呂を利用し、湯は温泉の湯を使用している。湯船は大きく、ゆったりとのんびりと入浴出来る為、利用者全員が入浴を楽しめる様に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼休みの時間を設けてあり、居室で休まれる方・ホールでくつろいでいる方等様々である		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表を作っており緊急時にも役立っている。受診ノートも活用しており、症状変更時に関しては管理者が中心となり提携医と相談し対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話を楽しむ方・カラオケが好きな方・体を動かす方、その時の状況に合わせて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩「東屋ガーデン」に出向き、植物を眺めたりして過ごす事もある	ベランダからの森林浴、事業所周辺の散歩、時々、気分転換に駐車場に出て皆で歌を歌うこともある。花見の季節には桜・紫陽花・紅葉を見にドライブに出掛けており、日々の外気浴を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で保管しており必要時には家族に連絡し使用報告している。日用品等急用で購入が必要時は管理者が中心で買い物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から電話や手紙が届いた際には、職員が対応し家族に報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは檜の香りがあり、少しでも季節感を出す為職員が工夫し各行事毎に展示したり、ふるさと便りを掲示している	リビングには季節毎の貼り絵、職員の似顔絵、行事の写真があり、窓からは森林の香り、景色が遠くまで見下ろす事が出来、清々しい静かな空間が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が思い思いに椅子を並べ過ごされたり、居室では一人の時間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が昔の写真を居室に置いて行かれ少しでもホームで落ち着いて穏やかに生活出来るように工夫し支援している	ベッド・トイレ・洗面台・整理箱・整理棚が設置され、温かさが感じられる木材を頻繁に使用している。又、テレビ・使い慣れた椅子・家族の写真等が置かれ、安心して過ごせる様に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームは狭く、生活空間も限られているように感じるが、その中で入居者や職員の笑いが響く環境を作れるよう工夫している		